



日本証券業協会  
Japan Securities Dealers Association

# IOSCO協力会員諮問委員会（AMCC） 年次会合等の模様について

IOSCO

2026年6月  
日本証券業協会

# AMCC年次会合の概要

1) 開催日	2026年5月8日 20:30-22:45 [日本時間]	
2) 開催方法	ウェブ開催 (Webex)	3) 参加者
		約107名 (約40機関)

## 4) 今回のポイント

- 本年の年次会合等はエジプトでの開催を予定していたが、中東情勢等の影響によりオンラインでの開催となった。
- 今回の年次会合では、オンライン開催に伴う時間制約もあり、主にIOSCO及びAMCCによる取組みの進捗報告等が行われた。
  - IOSCOでは、次の作業計画を策定するにあたり、足元の主要リスクを取りまとめる作業を実施中。目先のリスク事項としては、マーケットにおける潜在的脆弱性／不確実性、テクノロジー（デジタル資産、AI、量子技術）、プライベートファイナンス（プライベートクレジット）、リテール投資家（行動変化、予測市場）等が挙げられており、近日中にIOSCO代表理事会に報告予定。
  - フィンテック関係では、①トークン化、②量子コンピューティング、③AIについてそれぞれ検討が進められている。
    - ①トークン化については、昨年のレポートで特定されたユースケースの変容を確認するほか、トークン化株式についても検討予定。
    - ②量子コンピューティングについては、業界における利用見込みを把握しつつ、検討方針を決める予定。
    - ③AIについては、AIの監督ツールキットの策定（※<sup>2</sup>）のほか、業界向けのITガバナンスおよび開示に係る慣行等を取りまとめる予定。
  - このほか、AMCC内の下部会議体（将来的な主要リスク、市場の分断、市場構造、市場仲介者および金融安定、金融イノベーション、サステナブル・ファイナンス）の作業報告のほか、アンソロピック社のMythosに関するリスク等についても意見交換が行われた。
- 次回のAMCC中間会合は、2026年10月頃にスペイン（マドリッド）で開催予定。

※1 今回の年次会合にあわせて、AMCCの首脳の改選が行われ、AMCC議長には、カナダ投資規制機構（CIRO）のアンドリュー・クリーグラーCEOが続投、副議長には、シンガポール取引所規制部門（SGX RegCo）のタン・ブーン・ギンCEOが就任。

※2 会合後、2026年5月25日、資本市場におけるAI利用に係る監督上のツールキットが公表された。

# IOSCO年次総会の概要

1) 開催日	2026年5月14日 20:00-21:40 [日本時間]		
2) 開催方法	ウェブ開催 (Webex)	3) 参加者	約240名 (約130機関)

## 4) 今回のポイント

- 今回の総会では、IOSCO代表理事会議長より、以下のとおり作業予定等について説明が行われた。
  - IOSCOでは、本年5月13日にオンラインにて開催された代表理事会会合にて、新理事会メンバー（※<sup>1</sup>）が選出された。
  - 新体制の下、IOSCOでは、ノンバンク金融仲介（NBF）の強靱性向上、テクノロジー（AI、トークン化、量子技術）への対応、リスク評価と政策対応等を重点的に取り組むこととしている。
    - ◆ リスク評価を踏まえた政策対応等については、既に5月13日の代表理事会会合において5本の報告書（うち、1本は市中協議）を承認済み（※<sup>2</sup>）。実施モニタリングのほか、新興市場のキャパシティビルディングにも引き続き取り組む予定。
- また、会合では、デジタル社会におけるリテール投資家に焦点をあて、オランダ王室マキシマ王妃からのビデオメッセージのほか、パネルディスカッションが実施され、リテール投資家の投資行動の変化に伴う課題（フィンフルエンサー（※<sup>3</sup>）等）、市場へのアクセス向上に伴う新たなビジネスモデル（ネオブローカー（※<sup>4</sup>）等）、金融イノベーションを含む構造変化（AI、トークン化）、国際的な協調の強化および監督の実効性向上等について、地域委員会（アジア太平洋、欧州、米州、アフリカ・中東）のメンバーから説明／意見交換が行われた。
- 次回の年次総会は、2027年5月24日～27日にカナダ（ケベック）で開催予定。

※1 代表理事会等の首脳の改選が行われ、IOSCO代表理事会議長には、ベルギー金融サービス市場庁（FSMA）のジャン・ポール・セルヴェ長官が再任。副議長には、カナダ・オンタリオ州証券委員会（OSC）、米国証券取引委員会（SEC）およびエジプト金融規制庁（FRA）の幹部に加え、日本金融庁の三好敏之金融国際審議官が選任。

※2 ①取引時間の延長に係る分析レポート（2026年5月21日 [公表済み](#)）、②エクイティ取引における取引日中の市場流動性の変化に係る市中協議文書（2026年5月21日 [公表済み](#)）、③AIに係る監督上のツールキット（2026年5月25日 [公表済み](#)）、④集団投資スキームのバリュエーションに係る最終報告書（2026年6月1日 [公表済み](#)）および⑤流通市場開示に係る勧告の最終報告書（2026年6月8日 [公表済み](#)）が承認された旨が発表された。

※3 フィンフルエンサーとは一般的にソーシャルメディア上で投資関連コンテンツを提供する人を指し、ファイナンスとインフルエンサーを組み合わせた造語。

※4 ネオブローカーは、IOSCOでは、魅力的な顧客インターフェース、SNS等も活用し、オンラインのみの人的関与なしのサービス提供を特徴とするブローカーと定義している。

# プログラム等

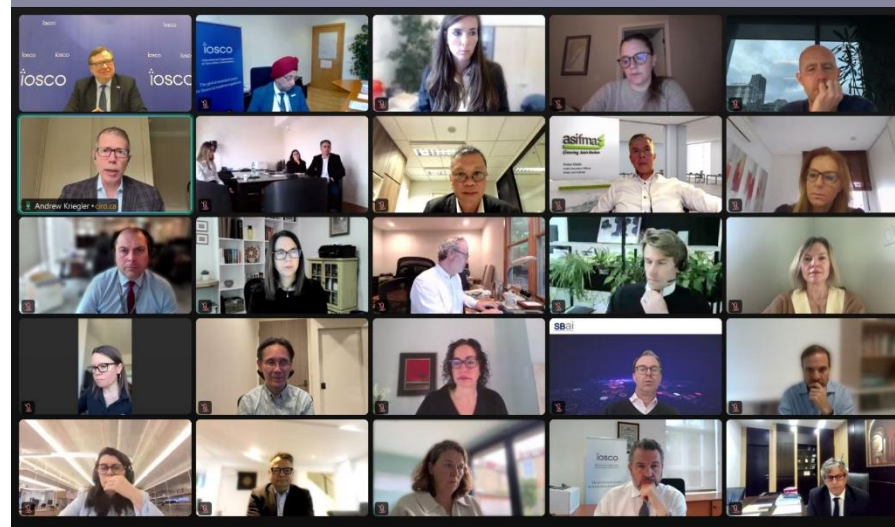
## 2026年5月8日（金） AMCC年次会合 プログラム

20:30 – 20:50	AMCC議長および副議長からの歓迎の挨拶
20:50 – 21:20	AMCCの優先事項／作業計画
21:20 – 21:40	各ワーキンググループからの報告および今後の作業予定
21:40 – 21:50	市場分断に係るレポート
21:50 – 22:15	フィンテックタスクフォース（FTF）の進捗報告
22:15 – 22:40	オープンディスカッション：アンソロピック
22:40 – 22:45	閉会

## 2026年5月14日（木） IOSCO年次総会 プログラム

20:00 – 20:10	開会挨拶
20:10 – 21:15	デジタル社会におけるリテール投資家
21:15 – 21:25	IOSCO事務局長からの報告
21:25 – 21:30	閉会（次回年次総会の決定等）

### AMCC年次会合の様様



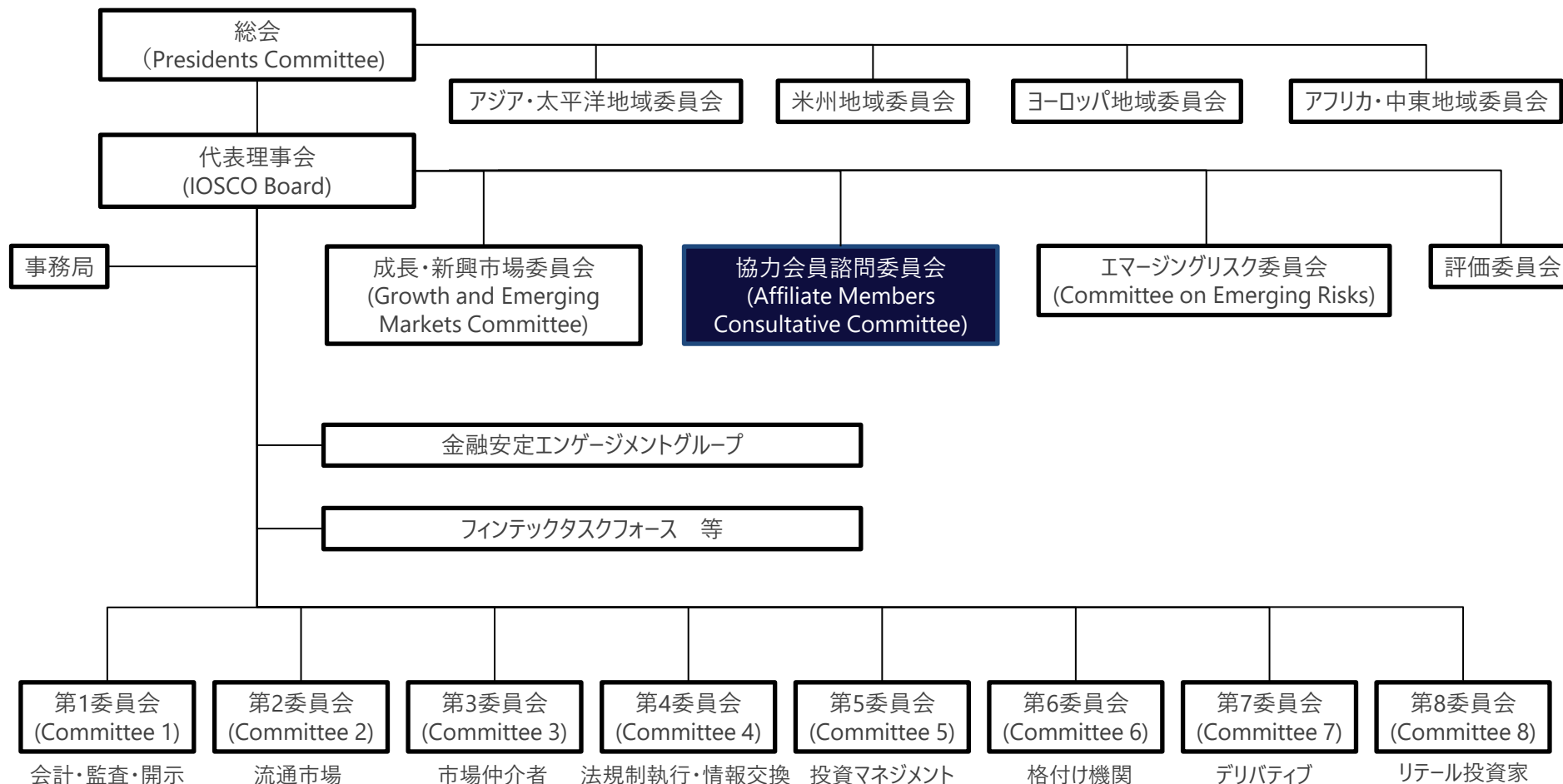
### IOSCO年次総会の様様



# (参考1-1) IOSCO/AMCCの組織・概要①

会議名	証券監督者国際機構／協力会員諮問委員会 (IOSCO : International Organization of Securities Commissions) (AMCC : Affiliate Members Consultative Committee)
IOSCOの設立目的	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 投資家を保護し、公正かつ効率的で透明性の高い市場を維持し、システムリスクに対処することを目的として、国際的に認識され、一貫した規制・監督・執行に関する基準の適切な遵守を確保し促進するために協力すること</li><li>2. 公正行為に対する法執行や、市場・市場仲介者への監督に関する強化された情報交換・協力を通じて、投資家保護を強化し、証券市場の公正性に対する投資家の信頼を高めること</li><li>3. 市場の発展への支援、市場インフラストラクチャーの強化、適切な規制の実施のために、国際的に、また地域内で、各々の経験に関する情報を交換すること</li></ol>
IOSCOの設立時期	1974年に設立された米州証券監督者協会を母体とし、1980年代以降に欧州・アジア諸国の機関が加盟。1986年のパリ総会において、現在の証券監督者国際機構という名称に改められた。
IOSCOのメンバー	IOSCOのメンバーには、正会員 (Ordinary Member)、準会員 (Associate Member)、協力会員 (Affiliate Member) の区分がある。我が国からは、金融庁、経済産業省及び農林水産省が正会員として、証券取引等監視委員会が準会員として、日本証券業協会及び日本取引所グループ/日本取引所自主規制法人が協力会員として、それぞれ加盟。
AMCCの概要と活動	<p>本協会が加入する協力会員諮問委員会 (AMCC) は、1989年に事務局長のイニシアティブにより設置された自主規制機関諮問員会(SROCC)が、協力会員の属性の多様化に伴い、2013年9月に名称変更されたもの。現在、約60の機関が加入している。</p> <p>AMCCの主な機能としては、協力会員としてIOSCOに参加している自主規制機関の知見及び意見をIOSCOの政策委員会の議論に反映させ、グローバルな規制環境の適正な整備に資することや協力会員間の意見交換等。同委員会の会合は通常年2回 (IOSCO年次総会時の会合及び中間会合) 開催。</p> <p>議長は、カナダ投資規制機構 (CIRO) のアンドリュー・クリーグラーCEO (2024年5月就任)。なお、2006～2012年の間、本協会が旧SROCCの議長を務めた。</p>

# (参考1-2) IOSCO/AMCCの組織・概要②



※ 1 日証協において、IOSCOの主要な委員会等のみを図示したものであり、同機構の全ての委員会及び関係会議体を網羅的に表示したものではありません。

## (参考2) AMCC年次会合等の開催実績・予定

	IOSCO年次総会	AMCC中間会合及び研修セミナー	
2007年	インド ムンバイ (4月)	東京 (11月)	中間会合のみ
中略			
2014年	ブラジル リオデジャネイロ (9月)	東京 (4月)	第7回研修セミナー
2015年	英国 ロンドン (6月)	スイス チューリッヒ (10月)	第8回研修セミナー
2016年	ペルー リマ (5月)	米国 シカゴ (9月)	第9回研修セミナー
2017年	ジャマイカ モンテゴペイ (5月)	インド ムンバイ (9月)	第10回研修セミナー
2018年	ハンガリー ブタペスト (5月)	英国 ロンドン (10月)	第11回研修セミナー
2019年	オーストラリア シドニー (5月)	スペイン マドリッド (12月)	第12回研修セミナー
2020年	ウェブ開催 (11月)	ウェブ開催 (11月)	第13回研修セミナー
2021年	ウェブ開催 (11月)	ウェブ開催 (6月)	中間会合のみ
2022年	モロッコ マラケシュ (10月)	ウェブ開催 (7月)	中間会合のみ
2023年	タイ バンコク (6月)	ウェブ開催 (3月)	中間会合のみ
2024年	ギリシャ アテネ (5月)	スペイン マドリッド (2月)	第14回研修セミナー
		カナダ トロント (11月)	第15回研修セミナー
2025年	カタール ドーハ (5月)	英国 ロンドン (10月)	第16回研修セミナー
<b>2026年</b>	<b>オンライン (5月)</b>	スペイン マドリッド (10月) (仮)	未定
2027年	カナダ ケベックシティ (5月)	未定	未定